

## 看取り事例 (施設②)

施設) キーパーソンが変更となり、希望である施設の看取りが出来なかった事例

(概要)

90 歳 男性 長女夫婦と同居、次女、孫夫婦。 脳梗塞後遺症、貧血、血小板減少症、

(経過)

施設入所時に意思の確認を行った。本人は「その時でないといけない。」娘は「アルクオーレで最期を迎えたい。」

入居後落ち着いて生活していたが入居して半年後に、突然意識消失し救急搬送。診断は極度の貧血で 1 回/月の輸血が必要。嘱託医と相談し、できるところまで通院で輸血を行い施設では急変に備え看取り介護を開始することで同意を得る。その後キーパーソンの娘が急逝。娘の夫は決められないと言い、次女は来所することなく、キーパーソンが孫に変更となる。

今までの経緯を説明し了解される。しかし、血中酸素濃度が低下した時、家族の意向で救急搬送後入院し 1 ヶ月後病院で死亡。

(本事例で達成できていること)

(本事例から見える課題)

(目指す姿の達成に必要な

令和 2 年 9 月 30 日 (水) までに高齢福祉課にご提出ください。

提出先(担当外山) : E-mail: toyama-yoshimi@city.anjo.lg.jp または FAX 0566-74-6789

